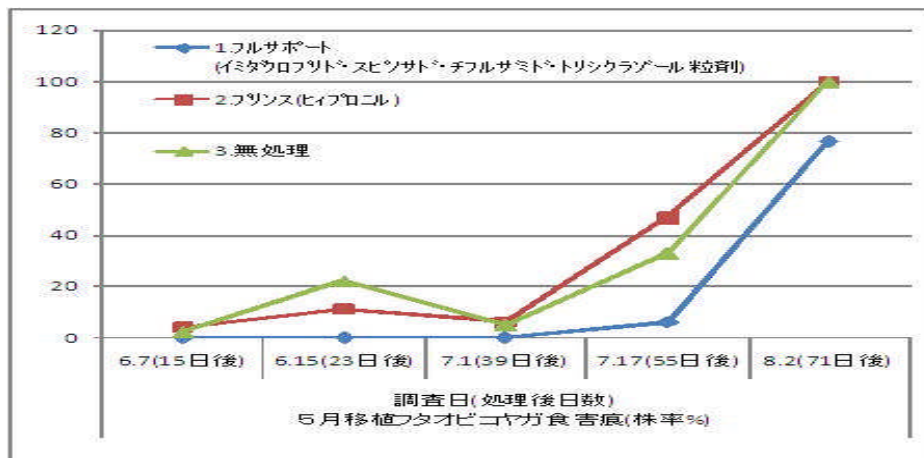


新箱処理剤によるフタオビコヤガの効率的防除法

「フタオビコヤガ」は、これまでは水稻の初期害虫として問題となっていました。しかし、近年は7～8月の被害が多くなり、問題化しています。箱施薬剤は農薬が飛散せず、防除が簡便なことから基本的防除手段となっていますが、本害虫の防除では効果が劣る傾向がみられました。そこで、薬剤を検証した結果、イタダクワドリとスピノサドを含む箱施薬剤によって防除効果を確認しました。商品は、「いもち病」対策等の殺菌剤との混合剤として、数種類が発売されています。



フタオビコヤガの幼虫と食害痕



箱施薬剤の相違とフタオビコヤガの食害痕推移 (注:プリンス粒剤は処理 23 日後では効果有り)

フタオビコヤガに対する効果的な箱施薬剤

箱施薬剤① 商品名：「ビーム・アトマイヤー・スピノ箱粒剤」 成分：1 イタダクワドリ（殺虫剤）
2 スピノサド（殺虫剤） 3 トリックラゾール（いもち病の対象剤）

箱施薬剤② 商品名：「ブイゲット・アトマイヤー・スピノ箱粒剤」 成分：1 イタダクワドリ（殺虫剤）
2 スピノサド（殺虫剤） 3 チルガミド（いもち病・白葉枯病の対象剤）

箱施薬剤③ 商品名：「フルサポート箱粒剤」 成分：1 イタダクワドリ（殺虫剤） 2 スピノサド
（殺虫剤） 3 チルガミド（紋枯病の対象剤） 4 トリックラゾール（いもち病の対象剤）

注) 現在、スピノサドを含む箱施薬剤の全てが殺虫・殺菌混合剤である